

Z世代に人気「BeReal」の利用実態調査 学習意欲やプライバシー意識との関連性は Journal of Digital Life に至学館大学・八尋風太氏が論文発表

SNSアプリ「BeReal」の使用における大学生の意識を明らかにするとともに、学習意欲やプライバシー意識との関連性について調査を行った研究論文を、至学館大学・八尋風太助教が発表しました。本論文（[「https://journal-digitallife.com/publications/technical-article/a-survey-on-bereal-among-university-students-focus-on-learning-motivation-and-privacy-consciousness/」](https://journal-digitallife.com/publications/technical-article/a-survey-on-bereal-among-university-students-focus-on-learning-motivation-and-privacy-consciousness/)）は、日本発の国際学術論文ジャーナル「Journal of Digital Life」（<https://journal-digitallife.com/>）（運営：株式会社産経デジタル、代表取締役社長：土井達士）に掲載されています。



「BeReal」は、ランダムな時間に来る通知から2分以内に写真を投稿すると、友人の投稿を見ることができるといったもの。友人たちの「いま」を知ることができるほか、制限時間がゲーム要素になり、若者の間で流行しているSNSアプリだ。本研究では、ある県内の大学生368名に対して調査を実施、「BeReal」の使用有無から、授業中に通知が来た際の対応、投稿する際の判断材料などを調査。並行して、学習意欲やプライバシー意識に関する質問にも答えてもらった。

その結果、対象学生の7割が「BeReal」を使用、その6割近くが授業中にも投稿したいと考えており、依存性の高さが示された。また使用している学生は、使用していない学生より学習意欲が低い傾向にあることが明らかになった。プライバシー意識については、使用学生と未使用学生との間で有意な差は認められなかったが、使用学生のうち「授業中も投稿する」グループは、「授業中は投稿しない」グループに比べて、自己のプライバシー意識や維持行動に関して低い傾向を示したという。

以上の結果を受けて八尋助教は、「BeReal」の仕組みや流行している状況を教員間で共有し、授業中におけるスマートフォンの使用ルールを作成する必要があるとした。また個人情報の漏洩や他者のプライバシー侵害による問題を防ぐため、情報リテラシー教育のアップデートの必要性もうったえた。

※日本語による解説記事はこちら「流行アプリ「BeReal」の利用実態を大学生向けに調査 至学館大・八尋助教が学習意欲やプライバシー意識の関連性も示す」[\(https://www.iza.ne.jp/article/20250228-ATF6DUQ4Q5GOFQ2K2MHFR2B3M4/\)](https://www.iza.ne.jp/article/20250228-ATF6DUQ4Q5GOFQ2K2MHFR2B3M4/)
※本論文に関するお問い合わせは「Journal of Digital Life事務局 (info-digitallife@sankei.co.jp)」までお願いいたします。

■Journal of Digital Life

デジタル分野に関する論文を世界に向けて発信する日本発のオンラインジャーナル。研究者と学際的研究によって証明されたエビデンスを根拠としたサービスや産業の発展促進を目指し、2021年9月1日に創刊。<https://journal-digitallife.com/>

運営会社



株式会社産経デジタル(<https://www.sankei-digital.co.jp/>)

2005年11月設立。ニュースサイト/ライフスタイルメディアや産経ネットショップを運営。お客様の広告出稿やスポーツ事業推進、イベント運営などもサポートしています。

PRESS CONTACT

株式会社産経デジタル Journal of Digital Life事務局 info-digitallife@sankei.co.jp / 東京都千代田区大手町1-7-2